



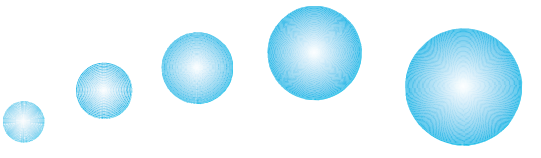
特集

M字カーブと向き合う

自分らしく働ける社会

ウィザスあしやの図書コーナーを利用してみませんか？

ウィザス



ウィザス ウォッチング

ウィザスあしやには男女共同参画に関する図書コーナーを設けており、書籍の貸出をしています。蔵書数はおよそ1,000冊あり、今回はその中の1冊をご紹介します。

『居場所のない男「時間」がない女』※

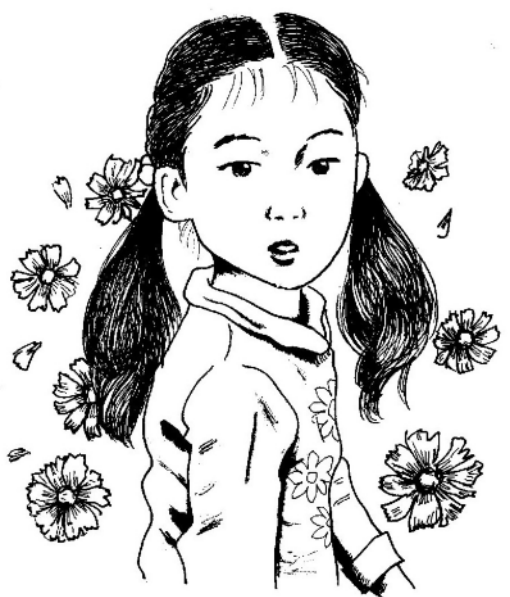
「男女共同参画」と言われてからずいぶんと経ちました。世の中は変わったのでしょうか。変わった部分もありますが女性結婚・出産による退職し、家事・育児・介護を行い、男性は仕事中心の生活で家事・育児・介護への参加がなかなか進んでいないというのが、実情ではないでしょうか。

著者の水無田氏は「仕事以外の人生の選択肢に乏しく、世界の孤独とされる日本人男性。婚活、妊娠、保活、リミットに追われ続け、(中略)家庭でも自分の時間を確保できない日本人女性。多くの夫と妻はたこえ、「生涯」を共にしても「生活」を共にしていない。」と書いており、男性の「関係貧困」「女性の「時間貧困」というキーワードを使い説明しています。

「日本の女性は超人的な母親を目指しすぎている?」「男性は家族がいないと孤独死する確率が上がる?」などの興味深い問題を、膨大なデータと著者の身につまされる体験談や周りの体験談も交え、わかりやすく身近に感じられるように解説しています。男女共同参画は誰かが考える問題ではなく、皆が考える問題であり、皆にも関係がある問題であるのだと、改めて気づかされます。

今回紹介した書籍以外にも随時新たな書籍も配架していく予定です。一度、ウィザスあしやに立ち寄ってみてください。『読書の秋』の1冊として、男女共同参画に関する書籍を読んでみてはいかがでしょうか。(書籍の貸出の際に、初めてのの方は身分証明書が必要ですよ)

※『居場所のない男「時間」がない女』水無田気流著 日本経済新聞出版社(2015)



絵 H.M

ワーク・ライフ・バランス

産休明け 仕事あるかな? A.S



秘密厳守 女性相談 面接相談

無料相談・予約専用電話 Tel.38-2022

～ご相談には、予約が必要です～

■内容 ①心の悩み相談
②家事調停相談

■日時 ①第1・2・4金曜日(午前10時～午後4時)
②第1火曜日(午前10時～正午)
第3金曜日(午前11時～午後4時)
※一時保育(無料)(要予約)

【法律相談】■9月10日(土)・10月5日(水)・11月12日(土)
■午後2時～4時(1人30分)(要予約)

平成28年度 市民企画講座

【神戸パイロットクラブ】

◆講座名 親子で楽しめる「つくるアート」<全6回/土曜日>

◆日時 9月10日・10月8日・11月19日・12月10日・1月14日・2月18日(土)*時間はいずれも午前10時～11時30分

◆会場 男女共同参画センター セミナー室

◆対象 親子10組(5歳～10歳)定員を超えた場合は抽選

◆一時保育 2歳から未就学児 4人(1人300円)<要予約>

【女性に対する暴力をなくす運動】

国の男女共同参画推進本部は、毎年11月12日から25日までの2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」を実施することを決定しました。

夫・パートナーからの暴力、性犯罪・売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

芦屋市男女共同参画センターでは、市民団体と協働して啓発キャンペーンを実施し、女性に対する暴力の防止を呼びかけ、市民に対する啓発を行っています。



一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3月曜日と火曜日の2時間、ゆっくりとお好きな本を読んでみませんか?
あなたの読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

■日時 【月曜日】9月26日・10月17日・11月21日<午前10時～正午>
【火曜日】9月20日・10月18日・11月15日<午前10時～正午>
※月曜日・火曜日とも先着各4人(2歳未満児の同伴不可)

■会場 男女共同参画センター ウィザスあしや

■対象 子育て中の親(祖父母を含む)と子ども(2歳以上就学前児)

■一時保育 各回とも、先着・各4人(1人300円)<要予約>

■申し込み 各月1日から、電話(Tel.38-2023)でセンターへ

編集後記

東日本の震災から5年。再び大震災が熊本で発生した。全国でその数、二千とも言われる活断層。今回は未知の断層が動いた可能性があるという。余震が続く今も鹿児島では川内原発が稼働を続ける。原発は基準を満たせば安全なのだろうか? 今日福島の東電第一原発から、高濃度汚染水が発生し続けている。(菅)

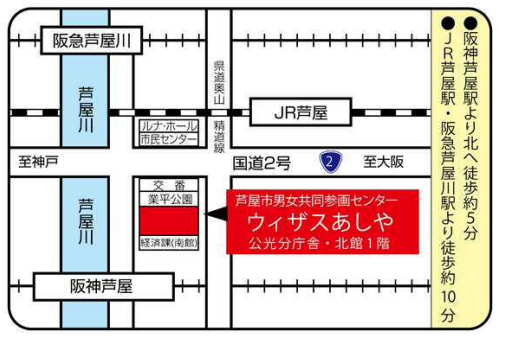
ウィザス No.86

平成28年9月発行(秋号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5-8(公光分庁舎・北館1階)
TEL.0797-38-2023 / FAX.0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館:月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分
■休館:日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)
ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html>



M字カーブと向き合う

～自分らしく働ける社会～

平成28年6月2日に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定されました。仕事・結婚・子育て・介護などたくさんの悩み事や迷いのあるなかで、みんなが元気に笑顔で活躍できる社会。でも「幸せのカタチ」って、ひとそれぞれ。自分にとっての幸せのカタチ、それが実現できる社会に向かって。



■M字カーブどうしてできるの？



女性の労働力人口は、結婚、出産期にあたる年代で一旦減り、育児が一段落してから、再び増えていきます。つまりグラフにするとアルファベットのMのような形になります。

厚生労働省でもM字カーブの谷になっている25歳から44歳の就業率を上げ、「M字の谷」をどう解消していくかを、大切な課題としています。



～働きたいときに働ける社会をめざして～



少子高齢化が猛スピードで進んでいます。これは労働力人口が減っていくことを意味します。政府は、少子高齢化に歯止めをかけ、家庭・職場・地域で誰もが活躍できる「一億総活躍社会」を目指すと宣言。

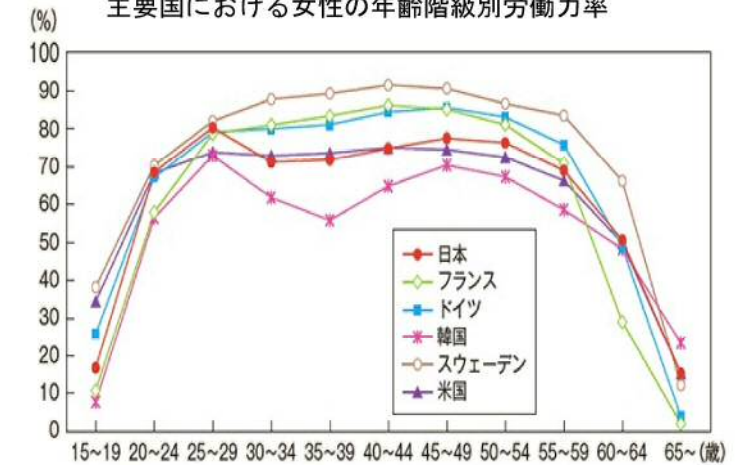
そこで課題になるのが、女性が結婚や出産を機に仕事から離れてしまう現象—M字カーブです。

今回は、芦屋ならではの独自のライフスタイルを尊重しながら、M字カーブとどう向き合えばよいのか、考えました。



■諸外国と比べてみたら

主要国における女性の年齢階級別労働力率



(備考)

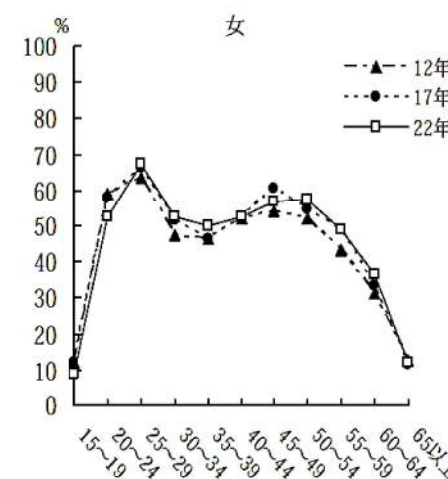
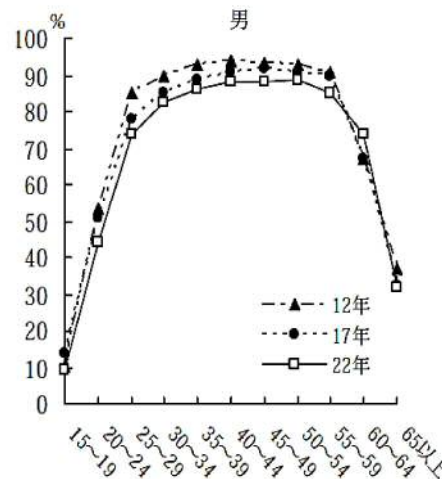
1. 日本は総務省「労働力調査（基本集計）」（平成27年）、その他の国はILO「ILOSTAT」より作成。
2. 労働力率は、「労働力人口（就業者+完全失業者）」/「15歳以上人口」×100。
3. 日本、フランス、韓国及び米国は2015（平成27）年値、その他の国は2014（平成26）年値。
4. 米国の15～19歳の値は、16～19歳の値。

(内閣府 男女共同参画白書 平成28年度版)

◆芦屋の地域力を活かして

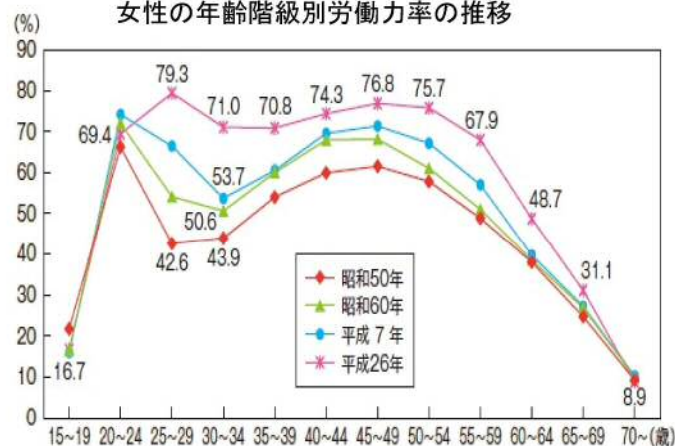
芦屋市では、15歳から65歳以上のすべての年代の女性の就業率が、全国の数値より低くなっています。これは郊外住宅地として発展した芦屋市の特徴で、地域で活動してきた女性が多いことがわかります。芦屋市男女共同参画推進審議会副会長で甲南大学教授の中里英樹氏は次のように述べています。「『女性の活躍推進』が国の大きな政策目標として掲げられていますが、女性が『職業』の領域でも力を発揮できる社会に転換しつつ、これまで芦屋市で培われてきた『地域力』を維持するには、男性の働き方や家族・地域との関わりを見直しが不可欠だと感じます。」（広報あしや 平成28年6月1日号）就労希望の女性が、子どもの預け先がない待機児童問題などで悩むことなく仕事をすることができ、地域で活躍する女性も自分らしくいきいきと暮らすことができるまち芦屋をめざしたいものです。

男女、年齢別就業率の推移



平成22年 国勢調査結果概要 芦屋市

女性の年齢階級別労働力率の推移



(備考)

1. 総務省「労働力調査（基本集計）」より作成。
2. 「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口（就業者+完全失業者）の割合。

(内閣府 男女共同参画白書 平成27年度版)

女性の年齢階級別労働力率を見てみると、日本はM字型のカーブを描いていることがわかります。グラフから、日本と韓国のM字型が顕著ですが、欧米ではM字型のへこみは見られず、おおむね50歳台まで平らに推移していることがわかります。これは欧米諸国と比べ、日本は結婚・出産を機に離職し、子どもが成長した後に再び働きだす女性が多いことを表しています。第1子出産時に、就労している女性の約6割が離職をしているのです。

M字型カーブが見られないスウェーデンでは、両親が合わせて480日間、育児休業を取得することができます。またこのうち90日間を「父親のみが取得できる休業」と法律で定めています。父親の90%近くが育児休業を取得しているスウェーデンには、父親を育児にかかわりやすくし、母親は仕事を続けやすくするための工夫が見られます。